

THE SAISON FOUNDATION

公益財団法人セゾン文化財団

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェローの紹介

公益財団法人セゾン文化財団では、2019年度の「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェロー」として、マレーシアを拠点に活動する振付家、リー・レンシンをお迎えいたします。

リー・レンシンはシンガポールのNanyang Academy of Fine Artsやニューヨーク州立大学パーチェス校でダンスを学び、その後、マレーシアやシンガポールを中心にソロやコラボレーション作品を数多く発表しています。近年は、現代社会で生活する人々の空間に着目したサイトスペシフィックなプロジェクトを手掛けています。日本では、フェスティバル/トーキョー16で『B.E.D.(Episode 5)』を発表。また、TPAM2020 - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020では、ファイブ・アーツ・センターのプロデューサー、ジューン・タンのディレクションとして『セクション 19 - 地域でのダンス儀式』を上演します。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスでは、鳥公園を主宰する劇作家、演出家の西尾佳織とのコラボレーションのリサーチとして、ボルネオ島のサンダカンやその他の都市に出稼ぎに行った「からゆきさん」をテーマに、山崎朋子のノンフィクション『サンダカン八番娼館』の舞台となった天草諸島や島原半島を調査します。また、釜ヶ崎や新長田、若葉町を訪問し、身体とボーダーやコミュニティの関係性について経済や労働の視点からリサーチを行います。

ヴィジティング・フェローでの滞在期間中、日本の舞台芸術の状況や背景、魅力などを発見していただくため、多くの舞台芸術関係者と交流していただきます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 滞在期間 2020年3月4日(水)-3月25日(水)
- 滞場所 森下スタジオ (東京都江東区森下3-5-6)
- 滞在目的 「Bodies and Borders」
滞在目的:ジェンダー、階級、ネイション等の視点から身体が置かれるポジションやボーダーについて考察する



令和元年度年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」



リー・レンシン

プロフィール

リー・レンシン (Lee Ren Xin)

シンガポールのNanyang Academy of Fine Artsやニューヨーク州立大学パーチェス校でダンスを学ぶ。ニューヨークを拠点に活動するLeeSaar The Companyに参加後、マレーシアやシンガポールを中心にソロやコラボレーション作品を発表。また、Dancing In Asia(インドネシア)やフェスティバル・ボム(韓国)、International Young Choreographers Project (台湾)などのプロジェクトやフェスティバルに参加。日本では、フェスティバル/トーキョーやTPAM2020で作品を発表。2018年、シアター commonsで発表されたマーク・テ/ファイブ・アーツ・センター『バージョン 2020:マレーシアの未来完成図』、第3章にも出演している。

公益財団法人セゾン文化財団

〒104-0061 東京都中央区京橋3丁目12番7号 京橋山本ビル4階 TEL 03-3535-5566 / FAX 03-3535-5565